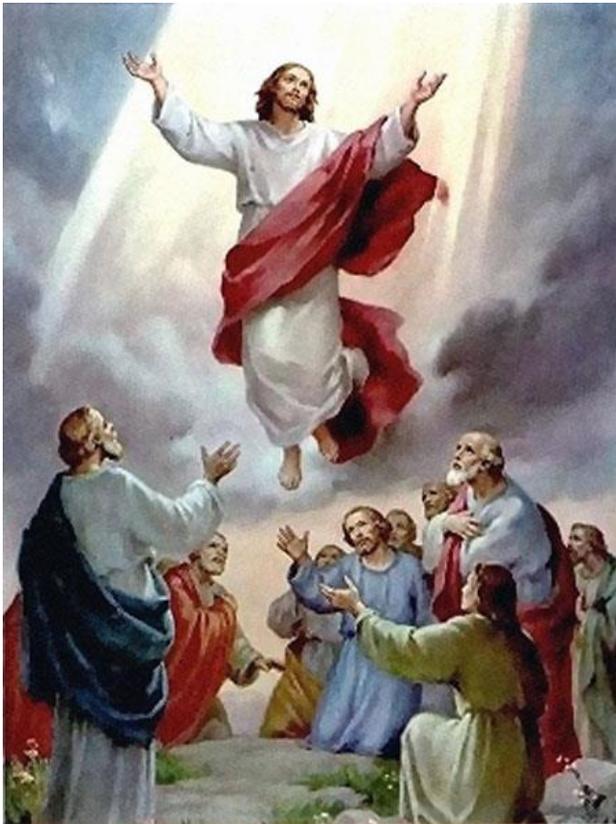


六甲カトリック教会 教会報



復活節から聖霊降臨まで

四旬節を経て、聖週間、そしてご復活で、私たちの喜びは頂点に達しますが、さらに主の昇天、聖霊降臨へと喜びは続いて行きます。



復活の主日を迎え、40日後が「主の昇天」。50日後が「聖霊降臨」(ペンテコステ)の祝日です。それぞれその日に近い主日(日曜日)を教会では当てています。今年で言うと復活節第7主日(5月16日)が「主の昇天」。「聖霊降臨」は5月23日(日)になります。イエスが復活し昇天し神の右の座に着き、やがて使徒たちの上に聖霊がふりそそぎます。初代教会が誕生して使徒たちは各地へ宣教の旅に出る…。このような一連の流れはまさに大きな信仰の出発です。典礼はその原則に従って進められます。この期間のミサの第1朗読は、使徒の喜びと宣教の意義が込められた使徒言行録が読まれます。また、復活の主日から最初の8日間は「主の復活の8日間」と呼ばれ、とくに洗礼を受けた新しい信徒に対して、代父母はもちろん、一般信徒、教会全体であたたかく迎え入れます。洗礼式が復活

徹夜祭のときに行われるのはまさしく、入信の秘跡が主の意に沿うためのタイミングで設定された、と言えるでしょう。

ミサでは、四旬節中の詠唱はアレルヤに代わり、復活主日には「復活の続唱」で喜びをさらに高め、聖霊降臨の主日では「聖霊の続唱」が歌われます。「主の昇天」を迎えるまでの40日間の間の主日は復活節第2~6(7)主日と数えられ、とくに復活主日の次に来る復活節第2主日は「神のいつくしみの主日」と呼ばれます。

主の昇天 「あなたがたの上に聖霊が降るとあなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリヤの全土で、また、地の果てに至るまで、私の証人となる。」 こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられた。(使徒言行録1章8節～9節)
 イエスの昇天の場面です。イエスはここで聖霊が使徒たちに降臨することを予言しています。

聖霊降臨 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いてくるような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉を話した。(使徒言行録2章1節～4節)
 聖霊が使徒たちに降った場面です。

ご復活から聖霊降臨に至り、いよいよイエスの教えは全世界に広がるスタートを切りました。派遣の意義を改めて思います。典礼聖歌 140 番「全世界に行って福音を宣べ伝えよ」との言葉は、マルコの最終章で記述されています。(編集部) 参考・カトリック中央協議会ホームページ



4月の主日ミサ予定表

日	時	地区(グループ)
4日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第1グループ
	11時半	第2グループ
10日(土)	18時	どなたでも
11日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第2グループ
	11時半	第1グループ
17日(土)	18時	どなたでも
18日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第1グループ
	11時半	第2グループ
24日(土)	18時	どなたでも
25日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第2グループ
	11時半	第1グループ

第1グループ
 灘北1・北三田
 灘北2・阪神
 灘南・神戸西

第2グループ
 灘西・中央
 東灘北1
 東灘北2・芦屋
 東灘南

聖なる過越の3日間

聖木曜日 4月1日	17時	第1グループ
	19時	第2グループ
聖金曜日 4月2日	17時	第2グループ
	19時	第1グループ
復活徹夜祭 4月3日	17時	第1グループ
	19時	第2グループ

🌸🌸🌸🌸🌸🌸 評議会新議長ご挨拶 🌸🌸🌸🌸🌸🌸



2021年度の評議会議長を拝命致しました西田仁です。私は現在、西宮市の阪急苦楽園口駅の近くで小児科を開業しております。自宅も苦楽園にあり、本来であれば夙川教会が最寄りではありますが、中学、高校を六甲学院に通っていた御縁で、中学入学以降六甲教会にお世話になっております。当時、中学生会、高校生会で活動させて頂いておりましたが、大学が和歌山県立医科大学に入学した為、籍だけは六甲教会に残したままではありましたが、夏休みの教会学校キャンプの

お手伝いに顔を出すのみとなっております。1995年の震災の折にはちょうど成人の日の連休で帰省していた為、西宮の実家で被災し、その後3月末まで六甲教会にお世話になっておりました。大学生を卒業して以降は、教会学校キャンプのお手伝いも出来ず、和歌山、大阪で勤務医をしておりました間は全く六甲教会に顔を出すことが出来ずにいました。2011年に西宮市に戻り、開業することになりました。この年の3月に結婚も重なり、六甲教会で松村神父様に式を挙げて頂きました。開業後もなかなか、教会に出向く事ができずにおりましたが、四人の子供に恵まれ、それぞれ六甲教会で洗礼を受けることが出来ました。3年前から長女が、2年前から次女が、そして今春から三女が教会学校でお世話になります。

私は昨年4月より1年間評議会副議長を務めさせて頂きましたが、コロナ禍の為、ほとんどの行事が中止となり、通常の年間業務を経験することなく、本年4月より議長をさせて頂くことになりました為、色々ご迷惑をかけることもあるかと思いますが、宜しくお願い致します。

2021 年度評議会評議員

		信徒会 (各会会長など)		専門部会 (コーディネーター)	
主宰	主任司祭	三日月会	蛭田 武	典礼部	中西 裕樹
議長	西田 仁	壮年会	林 和俊	宣教部	松平 麻也
副議長	宗行 孝之介 三垣 恭子	婦人会	蛭田 和子	養成部	松平 麻也
書記	増田 瑠美 大上 尚子	青年会	押谷 友望	社会活動部	井川 伸子
		中高生会		広報部	詫 洋一
		教会学校	吉村 祐基	施設管理部	本下 稔
		地区会	井川 直哉	財務部	蛭田 武



教会掃除 日曜班募集

先月号でも募集しましたが応募者が少ないため、日曜班掃除メンバーをさらに募集します。日曜班の掃除にご協力をお願いいたします。11時半のミサ後 12時半開始です。掃除当番は2か月に1回程度です。次回掃除当番日は4月25日です。日曜班の掃除当番の方は、主日の地区別のミサ時間に関係なく11時半のミサに与って下さい。毎週金曜日は、各地区が掃除当番になっておりますが、日曜日は所属地区を超えて金曜日の掃除に来れない方をお願いしております。ご協力いただける方は教会事務所にご連絡下さい。(新型コロナウイルスが終息し、従来のミサ時間に戻った場合は10時ミサ後の掃除となります。)



地区役員代表 井川 直哉



私たち夫婦はともに楽器を弾いています。私はバイオリン、妻はチェロです。ともに学生時代から始めました、この世界で言う、いわゆる「レイト」です。幼少時代から始めるのを「アーリー」と言います。目下我が家には幼稚園児がいますので、なにか楽器をやらせたい、「アーリー」のうちに…、なんて思っています。妻は幼稚園で小さなチェロコンサートをやりました。

私は社会人になってからは忙しかったのですが、しばらくしてアマチュアオーケストラに復帰参加しました。現在、ファーストバイオリンを弾かせて頂いています。アマチュアのオーケストラは団員の技量がさまざま、また楽器（特に管楽器）の編成も不揃いになったりして、選曲にかなりの制約があります。結局ブラームスの2番、ドボルザークの8番、とか定番ものに決まってしまうキラキライがあります。でも、学生オーケストラから市民オーケストラにて、いろいろな勉強をさせてもらいました。モーツァルトの交響曲40番は学生時代にやりたいと思っても、出来なかった曲ですが、市民オーケストラで演奏する機会にも恵まれました。練習は大変でしたが充実感を覚えました。昨年の9月、コロナの渦中でしたが、観客数は半分に制限して、ベートーベンの5番、6番の演奏会を開きました。次はチャイコフスキーの1番とメンデルスゾーン3番「スコットランド」の予定ですが、練習は緊急事態宣言などで休止が続き、なかなか思うようになりません。楽器はひとりで弾いてもいいのですが、こうして仲間と一緒にオーケストラで音楽を楽しむのはまた違った喜びがあります。種々のストレスからの解放、心の癒し、が私にとってはオーケストラへの参加でもあります。（佐伯和俊）



墓地っこ便り



穏やかなお天気に恵まれた2月28日(日)、2名の方の共同墓地への納骨が行われました。

今回は、関西3府県に対して新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発出されている時期でもあり、六甲教会としても感染拡大の防止を徹底するために、例年の「春の墓参」としてではなく、共同墓地への納骨を希望されたご家族以外の方には参加の自粛をお願いして「納骨式」のみを実施致しました。

事前にお伝えしておりましたように、今回は神父様による個人墓地の祝別も一切行っておりませんが、10月31日(日)に予定されております「秋の墓参」は例年通りの形で実施することができますよう、秋までには事態が改善されていることを願わずにはられません。

また、例年この時期に心配されるイノシシの侵入による被害ですが、イノシシの嫌がる薬剤を散布して頂いている効果があるようで、今のところは大きな被害もないようです。

最後に、個人墓地をご使用頂いている方でご自身での整備・清掃が可能な方は、引き続きこまめなお手入れをお願い致します。なお、遠隔地の為などでご自身でのお手入れが困難な場合は、六甲教会墓地委員会までご連絡をお願い致します。

六甲教会墓地委員会



浪江町の人々と



川内村の人々と



手芸を一緒に

チェルレウム・マーレ（女声アンサンブル） の東北被災地支援活動

女声アンサンブル「チェルレウム・マーレ」のみなさんは、東日本大震災の被災地支援を地道に続けています。チャリティーコンサートの義援金を届けたり、現地に出かけて交流を図ったり、とくに、遠隔地で避難生活を長く続けてきた福島県双葉郡川内村の人たちとの交流は深いものがあります。

「チェルレウム・マーレ」が「アンサンブル・イソジーナ」と名乗っていたころ、2012年秋、被災地である岩手県の赤崎小学校を訪問して、チャリティー演奏会の募金を児童たちに届けました。これが活動の発端です。メンバーは、六甲教会聖歌隊員数名と、その友人の音楽家たちで構成されており、その関係で教会を介した支援活動を始めました。その翌年から片柳神父を中心として立ち上げられた「ふっこうの架け橋プロジェクト」に参加し、チャリティーコンサートを行い、2015年の秋に、「実際にこの目で福島の現状を確かめたい」と、福島を訪問



郡山教会にて

しました。南相馬市のカリタス原町ベースの紹介で、五日間かけて三か所の避難地を訪ね、仮設住宅での交流会やカト

リック郡山教会でのコンサートを行いました。最後に訪問した郡山市の「ビッグパレットふくしま」(福島県産業交流会館)には川内村の方々が避難されていました。川内村は郡山市から数十キロも離れた山あいの過疎地で、高齢者が多い村です。皆さんは私たちが温かく迎えて下さり、コンサート、親睦会などで時間を共にし、「今度来るときには、草刈りも一緒にやろう」などと声をかけていただきました。その後川内村は避難所閉鎖に伴い、村民の皆さんは帰村されたものの、一昨年台風19号では大きな被害を受けました。私たちは川内村支援のために、この数年クリスマスチャリティーコンサートを行ってきました。特に昨年末はコロナ禍の中、オンラインコンサートを行いました。たくさんの方々からお心を寄せていただき、村民の方々にも大変喜んでいただきました。いつかまた川内村を訪問したいと願っていますが、現状ではなかなか実現できません。しかしこれからも川内村との交流と支援活動は、長く続けていきたいと思っています。

(チェルレウム・マーレ 清水真理子)

※ チェルレウム・マーレとはラテン語で、青い海という意味です。



みんなの広場

～ブチ切れ暴れたイエス～

昔のキリストの映画では、イエスは後姿が多かったように思います。いつごろからか正面から映し出され、そのお顔は、今でいう金髪のイケメンで西洋人風でした(私のイメージもそのように出来上がっていました)が、実際のイエスは褐色の肌・黒い髪だったとか、また、大酒飲みと批判されながらも、皆とわいわいがやがや食事をするのが大好きだったとか、どこかで読んだ気がします。そんな血の通った人間的なイエスも魅力的だと、私個人的には思います。映画のシーンで印象深かったのは、過越しの祭りが近づいたエルサレムの神殿でイエスがブチ切れ暴れた場面でした。

映画の話はさておき、先日同じ個所がゴミサで読まれました。

「イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。『このような者はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない』と。「ユダヤ人たちは『こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか』と言った」のに対し、イエスは『この神殿を壊してみよ、三日で建て直してみせる』と、答えています。(ヨハネによる福音第2章13-25)

アルフレド神父様はお説教で言われました。『「神殿」とは46年かけて作られた建物のことではなく、イエス自身が父の住まう神殿であり、三日で建て直すというのは、三日後に復活するという意味です』と。さらにパウロのコリント人への第1の手紙6章19-20を引用されました。「あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神の神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではない」と。

アルフレド神父様は、それゆえ「イエスのみならず、私たち一人ひとりも、神の住まう神殿であることを意識して生きること(それにふさわしい)生活はおのずと変わるはずだし、悲しみのイメージの多い四旬節も、(大きな恵みを感じることで)喜びに満ちた期間として捉えることができるでしょう。」と言われたのではないかなと私は思いました。

(マルガリタ マリア 岩田聖代)



今月の聖人 4月

☆ 福音記者・聖マルコ



新約聖書「マルコによる福音書」を書いたと言われるマルコ。4月25日が聖マルコの記念日とされています。彼の福音書は、イエスの誕生、幼年期などの章はなく、共観福音書(マタイ、マルコ、ルカ)の中では、一番短い福音書です。マルコはペテロの忠実な書記または通訳として働き、「使徒言行録」や「フィレモンへの手紙」などから、バルナバとともにパウロの最初の伝道旅行に随行したことがわかります。没後、ベネツィアの市民が聖マルコの遺骸を引き取ったとされ、マルコと言えばベネツィアのサンマルコ寺院が頭に浮かびます。サンマルコ広場の翼を持ったライオン像は福音記者マルコを象徴し、ベネツィアの旗にもこのライオン像が描かれています。(詫洋一記)

参考・八木谷涼子「キリスト教歳時記」

◆ 聖なるヨゼフ ◆

今年の3月19日に私は盛大に聖ヨゼフの祝日を、或る修道院の聖堂で歌ミサを捧げてお祝いました。かなり以前の習慣ではあるが、イエズス会では3年間の神学の勉強が終わる三月に、かつては司祭叙階が行われていた。四旬節の最中であっても、聖ヨゼフの祝日は大々的に祝われる。そこで司祭叙階式をその前日に行い、当日には聖ヨゼフの執り成しを祈りつつ、初ミサを各自が石神井の神学院の聖堂で、家族や友人を招いて大喜びで行なった。ヨゼフは全教会の守護者であり、労働者の守護の聖人として崇められている。しかし彼の生涯や働きについて各福音書は余り語らない。彼は義なる人、ナザレ村の大工、夢で示される神の指示に沈黙して従うばかり。彼はイエスの誕生に密に関わり、イエスの名付け親であり、エジプトに下り、12歳のイエスの言行に立ち合った。残念ながら、彼の肉声・ナマの応答は皆無である。こうして人々の空想は、彼を年寄りのヒゲ爺さんに変え、前婚の連れ子を伴わせ、マリアとの結婚後は十数年で早死したという。しかしいずれも、福音書の中に確実な根拠や裏付けを欠いた後人の勝手な想像と思われる。

私は暇にまかせて「カトリック教会情報ハンドブック」を調べてみたところ、マリアの名を冠する修道会に比べて、ヨゼフの名を戴く修道会は余りにも少ないことに驚いた。ほぼ30対1くらいなのか。修道会の創立者たちは、マリアの生涯や働きの中に信仰者として仰ぐべき理想を見出し、マリアに肖る奉献生活を志した結果として名づけたのであろう。しかし別の見方をすれば、キリスト者の教会で十二分に黙々と額に汗する肉体労働、下積みのまま沈黙のうちに続く日常の平凡な庶民のナリワイが尊ば

れ重視されたのだろうか。むしろ祈りや観想に専心し、また学識や学問が大いに尊重されたのではあるまいか。キリスト教自体も奉献の在り方も、生涯を黙々と働かざるを得ない無名の人々からは遊離し、凡人の現実とはほとんど無縁な生活になったのではあるまいか。

かつて私の父母は、7人の子供たちに囲まれていた。確かに父さんびいきも母さんびいきもいたが、どれほど生身の父母を理解していたのか。二人は若い時に大変な恋愛で結ばれたが、母方の両親は決して結婚を認めず義絶状態が長く続いたと聞いている。そういえば父が母方の家を訪れ、一緒に食卓を囲むことは一度も無かったようだ。祖父母はいつも私たち孫を大歓迎していたが。かつてはアツアツの仲だったが、父母はよく夫婦喧嘩をしていた。そんなに仲が悪いのならば、早く別れた方が幸せではと子供たちは思ったが、父の死後に母がどれほどうち萎れ、父を頼りに生きていたかを見るにつけ、子供には決して立ち入れない夫婦の縁や不可思議さを思い知った。口数の少ない父親の孤独や悲哀を、実の子供たりとも十分に汲み取ることはできなかったのでは。

私は神の派遣に依って種々の聖務を各地でこなしてきたが、司祭は本質的に流れ者であり、自分の城に好きなだけ留まり続ける永住者ではない。今までの年月、私の司祭生活の模範と理想を、聖ヨゼフの沈黙と労働に仰ぎつつ、早くも51年が過ぎた。随分と山谷やデコボコに富んだ道行きを思いめぐらしながら、教皇フランシスコと共に祈っている。父親である聖ヨゼフよ、私の日々の歩みを導いてください、慈しみと勇気が与えられ全ての悪から守られますように。

中村健三 合掌

【 2021 年 4 月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				聖木曜日(主の晩さん)	聖金曜日(主の受難)(大斎・小斎) 聖地のための献金 ◎東灘南	聖土曜日 / 復活徹夜祭
4	5	6	7	8	9	10
復活の主日					◎東灘北2・芦屋	
11	12	13	14	15	16	17
復活節第2主日 (神のいつくしみの主日)					◎灘北1・北・三田	
18	19	20	21	22	23	24
復活節第3主日					◎灘北2・阪神	
25	26	27	28	29	30	
復活節第4主日 世界召命祈願の日 ◎日曜班				教会受付休み		

◎は掃除当番地区です

<p>次回5月号の発行は、5月1日(土)です。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をおまちしております。あわせてご意見もお寄せください。 (広報部)</p> <p>http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>六甲カトリック教会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>F A X 078-851-9023</p> <p>E - メール renraku@rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 アルフレド・セゴビア</p> <p>編 集 広 報 部</p>
---	---